

若手研究者が高校生らに講演Ⅱ東工大

東京工業大学では、十月一日から毎週土曜日・全八回にわたって、「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に採択された若手研究者十七名が、主に高校生を対象として最先端の科学・技術研究の取り組みをわかりやすく語る公開講演会を開催している。

この講演会は、内閣府が「国民との科学・技術対話」で提唱している、公的資金による科学・技術の研究成果の社会への還元の一環として実施しているもの。

開催初日は、五十六名の参加者に向けて、社会人教育院の鈴木正昭院長が開催主旨「国民との科学・技術対話」の取り組みについて説明。引き続き、応用セラミックス研究所の神谷利夫教授が「次世代ディスプレイやiPad3は「ガラス半導体」で動く」をテーマに、また、精密工学研究所の曾根正人准教授が「二酸化炭素を利用してエレクトロデバイスを作成する」をテーマに各四十五分講演し、高校生をはじめ参加者との活発な質疑応答を行った。



研究の取り組みの成果に加えて、高校生向けに活躍する研究室在籍生を紹介する曾根准教授

講演会は今後、十一月二十六日まで開催する。講演会に問い合せ等は、東工大社会人教育院事務室(電話〇三・三四五四・八八六七、eメール lininfo@kyoik.ac.jp)まで。



質問に答える
神谷教授
u.i.n.titech.ac.jp

室工大、蘭岳コンサートを開催

室蘭工業大学は十月二十一日、「第十四回蘭岳コンサート」を大学会館多目的ホールで開催し、教職員及び市民約百二十名が演奏を楽しんだ。

第一部は、室工大の管弦楽団が有志によるアンサンブルを披露し、第二部では室蘭出身のギタリストKazzさんをギター、ギタレレ、ジャンベの演奏を行った。また、第二部



演奏する室工大管弦楽団

では、映像作家の三ツ谷しげ晴さんが友情参加し、演奏と映像のコラボレーションを行った。

また、今回のコンサートでは、被災者支援のための義援金を募り、総額九千二百円が寄せられ、全額が「日本赤十字社東日本大震災義援金」として贈られた。

名大博物館が地球教室

親子が河原の石で包丁作り

名古屋大学博物館は、親子対象のフィールドセミナー「地球教室」を十月二十九日・三十日の両日開催した。

この「地球教室」は、名大博物館が名古屋科学館と連携して行う地域貢献事業。野外での自然観察と、博物館での座学を組み合わせて、印象的で効果的な学習体験を行っている。



各務原市鵜沼の木曽川。座学で習った石の使い方を、実際に体験する参加者

今年度の三回目となる今回は、小中学生と保護者ら二十三名が参加。岩石について学習し、木曽川の河原でチャートの露頭観察や河原石の採集を行った。また、地質学的内容を人文学的側面に関連づけ、総合的な学習を遂げるための工夫として、石で包丁を作る体験を用意。石器を作る作業を通して、岩石の種類や性質の違いを体感した。

さらに、製作した石器の機能性を知るために、肉や野菜を切って調理。参加者は、岩石鑑定や石器づくりからカレーうどんづくりまで幅広い内容を楽しんでいた。同事業は、参加者の安全確認と活動補助のために、愛知大名古屋一般教育研究室内の援助を受けている。



出演者と役員

ギタレレを演奏する
Kazzさん